

とやまの曳山

ひき やま

“世界の宝”を守り続ける



第16回
全国地域映像コンクール

受賞 グランプリ
(第1位)

郷土学習教材 [映像作品 32分45秒]

- DVD
- BD
- インターネット動画



<http://www4.tkc.pref.toyama.jp/video/>

監修：米原 寛 (越中史壇会会長)
ナレーション：久和恵実
車 吉章 (ま〜る)
音楽：駒見典子 (こま工房)
富山県映像センター職員

2018 (平成30) 年制作

制作：富山県教育委員会
富山県映像センター
(富山県生涯学習カレッジ 映像センター課)
TEL 076-441-8455 / FAX 076-441-5334



とやまの 曳山

ひき やま

“世界の宝”を守り続ける

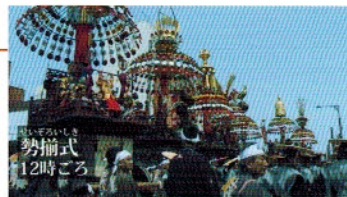
この映像教材のねらい

- 富山県全域の“曳山祭”の特色や成り立ちについて学ぶ。
- 現在の課題を知り、祭りを存続させていくことを考える。

[上映時間: 32分45秒]

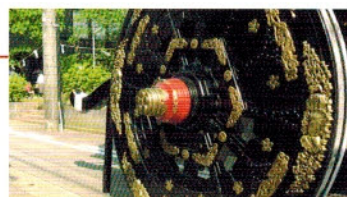
Chapter① “山を曳く”祭り 高岡御車山祭より

県内で最も早く始まった“山を曳く”祭りを一例に、曳山祭の流れを概観する。古くから定められた形式に従い、“山”は行列を成して、一日がかりで町を巡行していく。



Chapter② とやまに生まれた“山々”

かつて越中と言われた富山県で“山を曳く”祭りが始まるのは、江戸時代初期。越中にある加賀藩の城下町の「高岡御車山祭」をきっかけに、各地に祭りが起こっていく。



Chapter③ 魅力あふれる“山”の数々

とやまの曳山は多種多様。県内全域が“曳山のるつぼ”のようでもあり、今も24の祭りが続く。「花山型」「屋台型」「子供歌舞伎型」のほか、夜祭の「タテモン型」「夜高型」、類まれな「庵屋台」「築山」がある。



Chapter④ “越中曳山文化”が花開く

江戸時代の中期に入ると、越中の農村部や海沿いにも曳山文化が花開いていく。曳山祭は、各種産業を通して人々が力をつけた証であり、庶民の文化として広がっていった。



Chapter⑤ 苦難を越えて

凶作や飢饉、疫病や大火、さらに戦争……。それでも人々は、“山”を何百年と守り続けていく。明治・大正・昭和・平成と時代は移り、いまや富山県の曳山祭は“世界の宝”として認められている。



Chapter⑥ “山”を守り続ける

日本全国の多くの祭りと同様に、いま現在、富山県内の曳山祭にも課題が山積する。しかしながら、人々は存続のために熱い思いをもって、さまざまな試みを進めている。



表面の写真: 【一段目】 石動曳山祭 (小矢部市)、井波よいやき祭り (南砺市)、岩瀬曳山車祭 (富山市)、魚津たてもん祭り (魚津市)、越中八尾曳山祭 (富山市)
【二段目】 海老江曳山まつり (射水市)、祇園祭り (氷見市)、黒河夜高祭 (射水市)、庄川観光祭 (砺波市)、城端曳山祭 (南砺市)
【三段目】 新湊曳山祭 曳山巡行 (射水市)、大門曳山まつり (射水市)、高岡御車山祭 (高岡市)、高砂山願念坊祭り (富山市)、津沢夜高あんどん祭 (小矢部市)
【四段目】 出町子供歌舞伎曳山祭り (砺波市)、砺波夜高祭 (砺波市)、福野夜高祭宵祭り (南砺市)、福野夜高祭本祭り (南砺市)、福光春季例大祭 (南砺市)
【五段目】 伏木曳山祭 (高岡市)、二上射水神社祭山行事 (高岡市)、新湊曳山祭 祭山行事 (射水市)、四方子供曳山祭り (富山市) ※左上から五十音順

富山県各地にある曳山祭の映像は、ホームページ「とやまデジタル映像ライブラリー」で視聴することができます。

【問い合わせ】

富山県映像センター

(富山県民生涯学習カレッジ 映像センター課)

〒930-0096 富山県富山市舟橋北町7-1 富山県教育文化会館3階

TEL 076-441-8455 / FAX 076-441-5334

<http://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/>

